

ひろかれボランティア
わっ・輪・和
いちほら

連協だより

発行
市原市ボランティア連絡協議会
〒290-0075 市原市南国分寺台 4-1-4
事務局
社会福祉法人 市原市社会福祉協議会
市原市ボランティアセンター
☎0436-20-3100/FAX0436-22-3031
メールアドレス
V_ichihara201904@yahoo.co.jp

市原市ボランティア連絡協議会 加入グループ47 個人会員19 総数651名 (2021年12月現在)

コロナ禍の中での新たな活動

市原市ボランティア連絡協議会 会長 鈴木幹夫

会員の皆様には、日頃からV連協の活動へのご支援ご協力ありがとうございます。

コロナ禍の中、ここ1年半ほど対面するボランティア活動は休眠中の団体及び個人会員が大半であると聞いております。ボランティア活動を提供する側、そしてボランティアを享受する側ともに肉体的・精神的にストレスのたまる日々でした。最近では感染対策の常態化とワクチン接種が進み、誰もが想像できない急激な感染者減少の中、徐々にコロナ対策が緩和され、あらゆる社会活動の取り組みが始まりました。しかしV連協としては今年度のイベントは(交流会・夏休み親子体験教室・講演会・バス研修会)全て中止としています。

コロナ禍の中、絶好の機会と位置づけて、①移動型Wi-Fi 通信システム導入 ②そのシステムを使って役員及びES委員がわが家に居ながらにして対話ができる勉強会 ③V連協団体および個人会員が自宅に居ながら「つながる」ための普及活動 ④移動型Wi-Fiシステムの貸出制度の確立など、着実に「新たな活動」が芽生えはじめました。なかでも役員会・ES委員会は、全ての役員と委員がパソコン、スマホ、



タブレットなどを駆使してリモート会議ができるようになりました。更に団体及び個人会員を対象としたリモート交流会も開催できました。

コロナウイルス感染症がどのように変化しようとも、いつでもどんな時でも対応できる体制づくりの第一歩をふみ出すことができました。この流れを更に拡大し定着すると次の新たな課題に取り組むこと

ができるようになります。

第1に、役員会のペーパーレス化と自宅からの出席ができること。

第2に、V連協だよりを電子版で提供(希望者には紙面で)。メリットは、印刷代と郵便代の節約および団体代表が会員に届ける煩雑さからの解放。

第3に、年1回の総会も対面とリモート両方で行い、多くの会員が参加できる総会にできます。

第4に、あらゆる非常時に必要な情報を必要ときに提供し、ともに活動できる。

第5に、無料貸出Wi-Fiシステム利用のすすめ。その際、出張での使い方指導もお受けいたします。

等々効果が望める一方、パソコン・スマホが苦手という会員がいることも見逃せません。そこで、これまでに培った学びの場「パソコン教室」「スマホ教室」「Zoom対話教室」など要求に応じて適時開催いたします。皆様の認知症予防を含めて、解らない者同士で楽しく学び一歩ずつ前へ進みましょう。

来年度は、COVID-19が通常の風邪程度になることが大事です。それには無料ワクチン接種(予防)と保険適用の治療薬(治療)が必須です。更に感染したときにきちんと病院に掛かることができる体制などを見極めながら、対面イベントを盛り上げていきたいと考えています。

皆様お願い! ①どのようなイベント(行事)があったら良いと思いますか? ご意見をお寄せください。②市原市公共開放施設へ無料Wi-Fi通信網設置をV連協として要求していきたいと考えています。要求する際の具体的方法などご存じの方はV連協会長宛提言をお願いします。



コロナ禍の中、元気に活動している

市原SC21の会

会員数：8名 代表者：石田静江 シルバーカレッジの卒業生で結成。活動日：第2日曜日 13：45～14：30 菊間コミュニティ・保健福祉センター

▼菊間コミュニティ・保健福祉センター



市原SC21の会は福祉施設等を訪問して、利用者さんと歌い、健康体操で体を動かし、頭も使ってもらう楽しい時間の提供をしてきましたが、昨年来、コロナ禍で訪問できない事態に。現状でできることは？



▲急いで準備！

なかに傾聴の会にも所属するメンバーがおり、リモート傾聴の活動をしている。ではリモートで歌を届けよう。しかし、インターネットで施設とつなぐ必要があり、これが中々難題。送る方はWi-Fi 機器が必要。受ける方はパソコンからテレビにつながりが必要。忙しい施設の職員は

グラムもあり、「希望苑」の皆さんには手作りの歌集を用意。一緒に歌います。

「ページ開くから、待って～」の声にしばし中断があったりしながら、誰もが知っている唱歌やナツメロを声を合わせて歌います。歌が終わると健康体操。浅井さんの「炭坑節」



▲ハーモニカとキーボードの伴奏で楽しく歌います

に合わせて市原SC21の会の皆さんと「希望苑」の皆さん一緒に体操をして終了。

あつという間の45分でした。「希望苑」の利用者さんは月1回のこのリモートライブをととても楽しみにしているそうです。続けていってほしい活動です。

市原SC21の会の皆さんは菊間コミュニティ・保健福祉センターからV連協貸し出しのWi-Fiを使い、「希望苑」とスカイプでつなぐ。「希望苑」には「傾聴の会 ひだまり」代表の青木三郎さんがスタンバイ、テレビの設定を担当します。

12時45分集合、機材をセットしリハーサル、13時45分配信開始。中々忙しい。



▲「希望苑」の皆さん

伴奏はハーモニカとキーボードで、この日は11曲。ちゃんとプロ



▲健康体操終了、皆さんお元気で～

ボランティアグループを紹介します。

おもちゃ病院いちほら

会員数：9名 代表者：石川英明

活動日：第1金曜日 13:00～15:00 五井公民館

おもちゃ病院いちほらは、全国組織「日本おもちゃ病院協会」のおもちゃドクター養成講座・入門編・実習編を受講し習得したおもちゃドクターたちのグループです。

毎回5～6名が参加し、持ち込まれたおもちゃを原則無料で診察・治療してくれます。ただし、取り替えた部品代のみいただくこともあるそうです。

当日来られなくても、五井公民館受付で預かって



診察・治療中

もらえるので、「おもちゃ病院 診察申込書」に記入して依頼することもできます。

ドクターにはそれぞれ得意分野があるそうで「どれどれ、なぜ動かないのかな？」と、どこか嬉し気に新しく依頼されたおもちゃを手にします。ネジ一つとっても様々な大きさや形があるので、いくつもの大きな道具箱の中には、どれがどう使われるかさっぱり分からない大量の部品類が！ これらを駆使しながら、「これどう思う？」「この場合どうする？」ほかのドクターとも協力しながら診察・治療していきます。

最後に石川さんからのお願いです。もう生産されていないおもちゃの治療依頼もあり古い部品が必要なので、使いふるしのおもちゃは捨てないで寄付してほしいそうです。ご協力をお願いします。

レコード交流会 個人ボランティア：石川英明

活動日：毎月最終日曜日 13:30～15:00 姉崎保健福祉センター（アネッサ）

このレコード交流会は石川さん個人の趣味で始め、12月で114回目。音源はレコードだけでなくCD・MD・カセットテープも、全て個人の私物。

午後1時30分開始ですが、11時頃から準備を始めます。何しろレコードプレーヤーから他のレコーダー、両側に計4つの大きなスピーカーを並べ接続するだけでも大変です。

コロナ禍で長い間コンサートにも行けていないので、久しぶりに大音量の中に身を置いて気持ちいい～。

「この音量は家では出せないからみんな来るんだよ」と、石川さん。確かに!!

取材した日は「108回 Canzone(カンツォーネ)を中心にイタリア特集」。常連さんからのリクエストなんだとか。言われて揃えられるのも凄いですね。

ポビー・ソロ「君に涙とほほえみを」、ミルバ「タンゴ・イタリアーノ」、ジリオラ・チンクエッティ「人、人、レター」等々美声と音量を堪能しました。

曲の合間の石川さんのウンチクも楽しい。曰く

amor(アモーレ)を逆に読むとローマだよ。曰くイタリア人は賑やか・うるさい! 曰く女性を見れば口説く! 常連さんは音楽だけでなく、この楽しいお話も聞きに来てるんですね。

取材は6月だったので、まだ緊急事態宣言中。参加は11名と制限されていて、お茶もなし。今はまた参加費300円でお茶を楽しみながら鑑賞できるようになりましたが、新たな変異株の発生で中々心が休まりません。心置きなくおしゃべりしながら鑑賞できる日が早く戻りますように。



▼アネッサボランティア室



市原市民特派員を務める、藤野美代（V連協広報部副部長）がFacebookで発信している記事を紹介し

ナツメロ会代表村越正明さん目の見えない87歳のオリジナル詞曲『みんなで歩こう&市原にゆめを』 【動画を撮影し、You Tubeで発信しました】

ナツメロ会は学校や介護施設でストレッチや脳トレ・音楽療法による健康づくりボランティアとして年間100回程の活動を行っています。代表である村越正明さんは、今年（令和3年）87歳で目の見えな

い視覚障がいを持っていますが昭和の懐かしい歌の歌詞をほとんど覚えています。また、市原をこよなく愛し、自ら作詞・作曲した「みんなで歩こう」「市原に夢を」を、まるで少年のように歌いながらみんなに元気を届けています。コロナ禍により、施設などの訪問ができなくなりましたが、それでもYouTubeを通じて元気いっぱい、明るく発信する姿に感動しております。



▲村越さん（中央）、奥様（右）とメンバーの増田さん（左）
◀藤野さん撮影中!!

〈ナツメロ会〉

いちほら市民活動団体ウェブサイト

<https://ichihara-machisapo.jp>

〈市原市社会福祉協議会ボランティアセン

ター〉☎ 0436-20-3100

特派員 藤野

【団塊シニアのITへの挑戦!】～メール活用の円滑化を目指す～

新型コロナウイルスの影響により、ビジネス現場では、取引書類の電子化の流れが高まるなど、急激にペーパーレス（Paperless）化が進んでおり、従来の郵送を中止し、メールの活用が求められています。

千葉土建一般労働組合市原支部（以下市原支部）では、技能者の情報の登録や、給付金の受け取りなどに必要となるメールを、シニア世代にも活用してもらうため、市原市ボランティア連絡協議会（以下V連協）に依頼し、6月24日（土）、「ガラケー&スマホでのメールアドレスの作り方と使い方」の講座を行いました。

共に生きていくことを大切に考え、パソコン・Zoom教室などを続けているV連協からは、鈴木幹夫会長を含む役員3名が講師として参加。

主催の市原支部「支部シニアの会」の会長である渡部和夫さんは「どうぞ、みなさん、しっかりと勉強して活用しましょう!」と力強く声をかけ、熱い拍手を送られました。

市原支部書記長の藤代学さんも、「生活のためにも、仕事のためにも、この場を設けましたので!」と親近感溢れる笑顔で家族のように接しておられました。

10名の参加者のほとんどが変遷の時代を生きてきた団塊世代! 経験豊かなシニアだからこそIT（Information Technology）を学び、人生100年時代に、もっとみんなを引っ張っていかうとする力がみ

なぎっていました。

使っているのは、ガラケーとスマホが半々。中にはガラケーからスマホに変えたばかりでやり方がわからないという方や、

すでにメールアドレスを持っているが、メールの返事や自分から送り方がわからないという方など、皆様本当に真剣に向き合っていました。

あっという間の2時間でしたが、ショートメールもできるようになった、メールの返事や送り方が分かったと喜ぶ方々もおられました。

最後にV連協の鈴木会長は、「これをきっかけにこれからも同じ仲間として交流を深めていけたら幸いです」と締めくくりました。

メールの円滑化で、コロナ禍でも、益々交流が深まることをお祈りします。

〈千葉土建一般労働組合市原支部〉

<http://doken-ichihara.jp/>

市原市民活動団体ウェブサイト まちサポいちほら内

〈市原市ボランティア連絡協議会〉

<https://ichihara-machisapo.jp/0207>

特派員 藤野

▼千葉土建の皆さんとの勉強会

